



## 2019年3月期 第1四半期決算短信〔米国基準〕（連結）

2018年7月30日

上場取引所 東

上場会社名 オリックス株式会社

コード番号 8591 URL <https://www.orix.co.jp/grp/company/ir/>

代表者 (役職名) 代表執行役社長 (氏名) 井上 亮

問合せ先責任者 (役職名) 経理部長 (氏名) 内村 幸夫 TEL 03-3435-3000 (代表)

四半期報告書提出予定日 2018年8月13日 配当支払開始予定日 ー

四半期決算補足説明資料作成の有無：有

四半期決算説明会開催の有無：有

(百万円未満四捨五入)

### 1. 2019年3月期第1四半期の連結業績（2018年4月1日～2018年6月30日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	営業収益		営業利益		税引前四半期純利益		当社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年3月期第1四半期	603,917	△23.8	91,995	0.0	110,954	△18.2	79,947	△10.9
2018年3月期第1四半期	792,297	34.8	91,980	5.2	135,611	14.5	89,712	16.9

(注) 当社株主に帰属する四半期  
包括利益 2019年3月期第1四半期 75,118百万円 (△20.3%) 2018年3月期第1四半期 94,298百万円 (98.3%)

	1株当たり当社株主に帰属する 四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり当社株主 に帰属する四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年3月期第1四半期	62.46	62.41
2018年3月期第1四半期	69.81	69.76

#### (2) 連結財政状態

	総資産	資本合計（純資産）	株主資本	株主資本比率
	百万円	百万円	百万円	%
2019年3月期第1四半期	11,371,902	2,834,950	2,712,205	23.9
2018年3月期	11,425,982	2,798,874	2,682,424	23.5

(注) 株主資本は米国会計基準に基づき、当社株主に帰属する株主資本合計を記載しています。株主資本比率は当該株主資本合計を用いて算出しています。

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年3月期	—	27.00	—	39.00	66.00
2019年3月期	—	—	—	—	—
2019年3月期（予想）	—	30.00	—	—	—

(注) 1. 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

2. 2019年3月期の期末配当予想額は未定です。

### 3. 2019年3月期の連結業績目標（2018年4月1日～2019年3月31日）

当社では、株主・投資家の皆さまと当社の中長期的な成長に向けた相互理解を深めるため、中期的な方向性を開示しています。詳細は【添付資料】6ページ「1. 当四半期決算の概況（3）中期的な方向性」をご覧ください。

※注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無  
新規 一社（社名）、除外 一社（社名）

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：有

② ①以外の会計方針の変更：無

(注)詳細は、【添付資料】11ページ「2. 四半期連結財務諸表等（6）会計方針の変更」をご覧ください。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2019年3月期1Q	1,324,629,128株	2018年3月期	1,324,495,728株
2019年3月期1Q	42,843,503株	2018年3月期	42,843,413株
2019年3月期1Q	1,280,053,507株	2018年3月期1Q	1,285,000,634株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数（四半期累計）

(注)2019年3月期第1四半期連結会計期間末および2018年3月期連結会計年度末において、役員報酬BIP信託（役員報酬のうち、将来支給する株式報酬に充当するもの）として保有する当社株式、それぞれ1,651,443株および1,651,443株は、期末自己株式数に含めていませんが、1株当たり情報の算出において控除する自己株式として含めています。

※四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいていますが、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。将来に関する記述の前提となる仮定および将来に関する記述のご利用にあたっての注意事項等については、【添付資料】6ページ「1. 当四半期決算の概況（3）中期的な方向性」をご覧ください。

## 【添付資料の目次】

1. 当四半期決算の概況 .....	2
(1) 連結経営成績 .....	2
(2) 連結財政状態 .....	6
(3) 中期的な方向性 .....	6
2. 四半期連結財務諸表等 .....	8
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	8
(2) 四半期連結損益計算書 .....	9
(3) 四半期連結包括利益計算書 .....	10
(4) 継続企業の前提に関する注記 .....	10
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	10
(6) 会計方針の変更 .....	11
(7) セグメント情報 .....	12
(8) 重要な後発事象 .....	12

## 1. 当四半期決算の概況

## (1) 連結経営成績

## 第1四半期連結累計期間の経営成績

	前第1四半期 連結累計期間	当第1四半期 連結累計期間	増減	増減率
営業収益 (百万円)	792,297	603,917	△188,380	△24%
営業費用 (百万円)	700,317	511,922	△188,395	△27%
税引前四半期純利益 (百万円)	135,611	110,954	△24,657	△18%
当社株主に帰属する四半期純利益 (百万円)	89,712	79,947	△9,765	△11%
1株当たり当社株主に帰属する 四半期純利益 (基本的) (円)	69.81	62.46	△7.35	△11%
(希薄化後) (円)	69.76	62.41	△7.35	△11%
ROE (当社株主資本・当社株主に帰属する 四半期純利益率、年換算) (%)	14.3	11.9	△2.4	—
ROA (総資本・当社株主に帰属する 四半期純利益率、年換算) (%)	3.18	2.81	△0.37	—

(注) ROEは、米国会計基準に基づき、当社株主資本合計を用いて算出しています。

## 業績総括(2018年4月1日から2018年6月30日まで)

当第1四半期連結累計期間の営業収益は、前年同期の792,297百万円に比べて24%減の603,917百万円になりました。生命保険事業において、保有契約の増加に伴い生命保険収入が増加したものの、変額年金保険契約および変額保険契約にかかる資産の運用損益が、市況の大幅な改善が見られた前年同期に比べて減少したことにより、「生命保険料収入および運用益」が減少しました。また、「商品および不動産売上高」は主にプリンシパル・インベストメント事業の一環として投資している連結子会社の売上減少により前年同期に比べて減少しました。一方、「サービス収入」は、主に施設運営事業において大口の売却益を計上したこと、およびプリンシパル・インベストメント事業の一環として投資している連結子会社の売上増加により、増加しました。

営業費用は、前年同期の700,317百万円に比べて27%減の511,922百万円になりました。上述の収益と同様に、主に「商品および不動産売上原価」および「生命保険費用」が減少し、「サービス費用」が増加しました。

「持分法投資損益」は、前年同期において主に不動産共同事業体で大口の売却益を計上したことから前年同期に比べて減少しました。

以上のことから、税引前四半期純利益は、前年同期の135,611百万円に比べて18%減の110,954百万円、当社株主に帰属する四半期純利益は、前年同期の89,712百万円に比べて11%減の79,947百万円になりました。

## セグメント別動向

当第1四半期連結累計期間のセグメント利益は、前年同期の134,422百万円から16%減の113,431百万円となりました。

各セグメントの当第1四半期連結累計期間の動向は以下のとおりです。

**法人金融サービス事業部門**：融資、リース、各種手数料ビジネス

	前第1四半期 連結累計期間 (百万円)	当第1四半期 連結累計期間 (百万円)	増減	
			金額 (百万円)	率 (%)
セグメント収益	25,456	25,004	△452	△2
セグメント利益	10,225	7,820	△2,405	△24

	前連結会計 年度末 (百万円)	当第1四半期 連結会計期間末 (百万円)	増減	
			金額 (百万円)	率 (%)
セグメント資産	991,818	976,117	△15,701	△2

セグメント収益は、国内の中堅・中小企業に対する各種手数料ビジネスが順調だったことからサービス収入が増加したものの、ファイナンス・リース投資および営業貸付金の平均残高の減少に伴い金融収益が減少したことにより、前年同期の25,456百万円に比べて2%減の25,004百万円になりました。

セグメント費用は、販売費および一般管理費等が減少しました。

上記に加え、前年同期において子会社・関連会社株式売却損益を計上したことから、セグメント利益は、前年同期の10,225百万円に比べて24%減の7,820百万円になりました。

セグメント資産は、ファイナンス・リース投資および営業貸付金が減少したことにより、前連結会計年度末比2%減の976,117百万円になりました。

**メンテナンスリース事業部門**：自動車リース、レンタカー、カーシェアリング、電子計測器・IT関連機器などのレンタルおよびリース

	前第1四半期 連結累計期間 (百万円)	当第1四半期 連結累計期間 (百万円)	増減	
			金額 (百万円)	率 (%)
セグメント収益	68,346	69,858	1,512	2
セグメント利益	9,894	9,696	△198	△2

	前連結会計 年度末 (百万円)	当第1四半期 連結会計期間末 (百万円)	増減	
			金額 (百万円)	率 (%)
セグメント資産	847,190	855,286	8,096	1

セグメント収益は、オペレーティング・リース収益が増加したことから、前年同期の68,346百万円に比べて2%増の69,858百万円となりました。

セグメント費用は、上述の収益の増加に伴って前年同期に比べて増加しました。

上記の結果、セグメント利益は、前年同期の9,894百万円に比べて2%減の9,696百万円となりました。

セグメント資産は、オペレーティング・リース投資の新規実行が増加したことにより前連結会計年度末比1%増の855,286百万円になりました。

**不動産事業部門**：不動産開発・賃貸、施設運営、不動産投資法人（REIT）の資産運用・管理、不動産投資顧問

	前第1四半期 連結累計期間 (百万円)	当第1四半期 連結累計期間 (百万円)	増減	
			金額 (百万円)	率 (%)
セグメント収益	46,520	54,524	8,004	17
セグメント利益	32,833	22,219	△10,614	△32

	前連結会計 年度末 (百万円)	当第1四半期 連結会計期間末 (百万円)	増減	
			金額 (百万円)	率 (%)
セグメント資産	620,238	598,140	△22,098	△4

セグメント収益は、施設運営事業において大口の売却益を計上したことからサービス収入が増加したため、前年同期の46,520百万円に比べて17%増の54,524百万円になりました。

セグメント費用は、前年同期に比べて減少しました。

上記に加え、前年同期の不動産共同事業体における大口の売却益計上に伴う持分法投資損益の減少により、セグメント利益は前年同期の32,833百万円に比べて32%減の22,219百万円になりました。

セグメント資産は、施設運営事業における大口売却および賃貸不動産の売却により、前連結会計年度比4%減の598,140百万円になりました。

**事業投資事業部門**：環境エネルギー、プリンシパル・インベストメント、サービサー（債権回収）、コンセッション

	前第1四半期 連結累計期間 (百万円)	当第1四半期 連結累計期間 (百万円)	増減	
			金額 (百万円)	率 (%)
セグメント収益	422,557	234,518	△188,039	△45
セグメント利益	16,657	11,905	△4,752	△29

	前連結会計 年度末 (百万円)	当第1四半期 連結会計期間末 (百万円)	増減	
			金額 (百万円)	率 (%)
セグメント資産	856,348	876,811	20,463	2

セグメント収益は、プリンシパル・インベストメント事業の一環として投資している連結子会社において前年同期における大幅な需要が一服したことによる商品売上高の減少、および販売戸数減少に伴う不動産売上高の減少により、前年同期の422,557百万円に比べて45%減の234,518百万円になりました。

セグメント費用は、上述の収益の減少に伴って前年同期に比べて減少しました。

上記の結果、セグメント利益は前年同期の16,657百万円に比べて29%減の11,905百万円になりました。

セグメント資産は、棚卸資産や環境エネルギー事業における事業用資産前渡金等の増加により、前連結会計年度末比2%増の876,811百万円になりました。

**リテール事業部門**：生命保険、銀行、カードローン

	前第1四半期 連結累計期間 (百万円)	当第1四半期 連結累計期間 (百万円)	増減	
			金額 (百万円)	率 (%)
セグメント収益	112,597	102,815	△9,782	△9
セグメント利益	22,014	21,785	△229	△1

	前連結会計 年度末 (百万円)	当第1四半期 連結会計期間末 (百万円)	増減	
			金額 (百万円)	率 (%)
セグメント資産	3,174,505	3,236,630	62,125	2

セグメント収益は、生命保険事業において保有契約の増加に伴い生命保険料収入が増加したものの、変額年金保険契約および変額保険契約にかかる資産の運用損益が市況の大幅な改善が見られた前年同期に比べて減少したことにより、前年同期の112,597百万円に比べて9%減の102,815百万円になりました。

セグメント費用は、上述の収益の減少に伴って前年同期に比べて減少しました。

上記の結果、セグメント利益は、前年同期の22,014百万円と比べて1%減の21,785百万円になりました。

セグメント資産は、変額年金保険契約および変額保険契約の解約が進んだものの、生命保険事業における投資有価証券の増加や銀行事業における営業貸付金の増加により、前連結会計年度末比2%増の3,236,630百万円になりました。

**海外事業部門**：リース、融資、債券投資、アセットマネジメント、航空機・船舶関連

	前第1四半期 連結累計期間 (百万円)	当第1四半期 連結累計期間 (百万円)	増減	
			金額 (百万円)	率 (%)
セグメント収益	117,032	118,479	1,447	1
セグメント利益	42,799	40,006	△2,793	△7

	前連結会計 年度末 (百万円)	当第1四半期 連結会計期間末 (百万円)	増減	
			金額 (百万円)	率 (%)
セグメント資産	2,608,819	2,574,171	△34,648	△1

セグメント収益は、航空機関連事業における機体の売却益を含むオペレーティング・リース収益およびアセットマネジメント事業におけるサービス収入が増加したことにより、前年同期の117,032百万円に比べて1%増の118,479百万円になりました。

セグメント費用は、前年同期と同水準になりました。

上記に加え、持分法投資損益が減少したため、セグメント利益は、前年同期の42,799百万円に比べて7%減の40,006百万円になりました。

セグメント資産は、関連会社投資の減少および米州の投資有価証券の減少等により、前連結会計年度末比1%減の2,574,171百万円になりました。

## （2）連結財政状態

### 資産、負債、株主資本の状況

	前連結会計 年度末	当第1四半期 連結会計期間末	増減	増減率
総資産 (百万円)	11,425,982	11,371,902	△54,080	△0%
（うち、セグメント資産）	9,098,918	9,117,155	18,237	0%
負債合計 (百万円)	8,619,688	8,529,479	△90,209	△1%
（うち、長短借入債務）	4,133,258	4,000,795	△132,463	△3%
（うち、預金）	1,757,462	1,790,695	33,233	2%
当社株主資本 (百万円)	2,682,424	2,712,205	29,781	1%
1株当たり当社株主資本 (円)	2,095.64	2,118.69	23.05	1%

（注）株主資本は米国会計基準に基づき、当社株主資本合計を記載しています。1株当たり株主資本は当該株主資本合計を用いて算出しています。

総資産は、前連結会計年度末に比べて横ばいの11,371,902百万円になりました。「投資有価証券」は主に生命保険事業において投資有価証券の購入が進んだことにより増加しました。一方、「ファイナンス・リース投資」は主に回収が進んだことにより減少しました。また、セグメント資産は、前連結会計年度末に比べて横ばいの9,117,155百万円になりました。

負債については、資産と手元流動性および国内外の金融環境の状況に応じて有利子負債残高を適切にコントロールしています。この結果、前連結会計年度末に比べて「長短借入債務」は減少し、「預金」が増加しました。

当社株主資本は、主に「利益剰余金」が増加したことにより、前連結会計年度末から1%増の2,712,205百万円になりました。

## （3）中期的な方向性（2019年3月期～2021年3月期）

オリックスは、事業ポートフォリオを、法人金融サービス事業部門、メンテナンスリース事業部門、不動産事業部門、事業投資事業部門、リテール事業部門、海外事業部門という6つのセグメントに分けて、マネジメントしています。さらに、この6つのセグメントを、リスクおよび資本負荷の観点から、「ファイナンス」「事業」「投資」の3つに分類し、オリックスの中期的な方向性を説明しています。

「ファイナンス」は、オリックスの顧客基盤であり情報の源泉ですが、現在の低金利環境下では、金融収益を大きく成長させることは困難であると考えています。そのため、引き続き「事業」と「投資」に注力し、安定した収益を伸ばしていくとともに、積極的に新しい分野を開拓し、次の柱となるビジネスを育てていきます。

自らが運営リスクを取る「事業」は、今後の成長ドライバーであり、新しい安定収益分野という位置づけです。環境エネルギー、アセットマネジメント、コンセッション、生命保険の各事業をはじめ、社会や市場の変化を捉えた新分野も含めて、M&Aや新規投資により拡大を進めます。

「投資」は、新しい事業分野を開拓する役割と位置づけています。国内外のプライベートエクイティ投資、航空機・船舶の各事業を中心に、事業を拡大してまいります。

目標とする経営指標としては、2021年3月期までの3年間で、当社株主に帰属する当期純利益の年間成長率4～8%、ROE11%以上の実現を目指します。

なお、本資料に記載されている将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいていますが、実際の業績は様々な要因により大きく異なる可能性があります。これらの将来に関する記述に依拠することはお控えくださるようお願いいたします。

将来に関する記述と異なる結果を生じさせる原因となる要素は、当社が関東財務局長に提出しています有価証券報告書の「事業等のリスク」、アメリカ合衆国証券取引委員会（SEC）に提出していますForm 20-Fによる報告書の「リスク要因（Risk Factors）」に記載されていますが、これらに限られるものではありません。

## 2. 四半期連結財務諸表等

## (1) 四半期連結貸借対照表(米国会計基準)

(単位:百万円)

	前連結会計年度 にかか る 要約連結貸借対照表 (2018年3月31日)	当第1四半期 連結会計期間末 (2018年6月30日)		前連結会計年度 にかか る 要約連結貸借対照表 (2018年3月31日)	当第1四半期 連結会計期間末 (2018年6月30日)
現金および現金等価物	1,321,241	1,228,846	短期借入債務	306,754	238,177
使途制限付現金	83,876	98,087	預金	1,757,462	1,790,695
ファイナンス・リース投資	1,194,888	1,177,749	支払手形、買掛金および未払金	262,301	265,813
営業貸付金	2,823,769	2,824,840	保険契約債務および保険契約者勘定	1,511,246	1,510,693
(公正価値オプションを選択し、 公正価値評価した以下の金額を含む)			(公正価値オプションを選択し、 公正価値評価した以下の金額を含む)		
2018年3月31日	17,260百万円		2018年3月31日	444,010百万円	
2018年6月30日	28,112百万円		2018年6月30日	419,455百万円	
貸倒引当金	△54,672	△56,960	未払法人税等	366,947	374,557
オペレーティング・リース投資	1,344,926	1,339,458	長期借入債務	3,826,504	3,762,618
投資有価証券	1,729,455	1,761,823	その他負債	588,474	586,926
(公正価値オプションを選択し、 公正価値評価した以下の金額を含む)			(負債合計)	8,619,688	8,529,479
2018年3月31日	37,631百万円		償還可能非支配持分	7,420	7,473
2018年6月30日	18,465百万円		契約債務および偶発債務		
事業用資産	434,786	438,637	資本金	220,961	221,111
関連会社投資	591,363	581,025	資本剰余金	267,291	267,613
受取手形、売掛金および未収入金	294,773	305,110	利益剰余金	2,315,283	2,352,321
棚卸資産	111,001	122,907	その他の包括利益累計額	△45,566	△53,295
社用資産	112,962	112,509	自己株式(取得価額)	△75,545	△75,545
その他資産	1,437,614	1,437,871	(当社株主資本合計)	2,682,424	2,712,205
(公正価値オプションを選択し、 公正価値評価した以下の金額を含む)			非支配持分	116,450	122,745
2018年3月31日	15,008百万円		(資本合計)	2,798,874	2,834,950
2018年6月30日	13,565百万円				
資産合計	11,425,982	11,371,902	負債・資本合計	11,425,982	11,371,902

(注) その他の包括利益累計額内訳

	前連結会計年度にかか る 要約連結貸借対照表	当第1四半期 連結会計期間末
未実現有価証券評価損益	10,465	7,453
金融負債評価調整	—	348
確定給付年金制度	△20,487	△20,500
為替換算調整勘定	△31,806	△36,821
未実現デリバティブ評価損益	△3,738	△3,775
	△45,566	△53,295

## (2) 四半期連結損益計算書(米国会計基準)

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)
営業収益		
金融収益	57,363	56,559
有価証券売却益および受取配当金	10,281	7,507
オペレーティング・リース収益	96,679	95,279
生命保険料収入および運用益	93,654	82,859
商品および不動産売上高	347,115	154,455
サービス収入	187,205	207,258
営業収益計	792,297	603,917
営業費用		
支払利息	19,099	20,149
オペレーティング・リース原価	61,738	62,737
生命保険費用	67,773	57,013
商品および不動産売上原価	327,045	142,721
サービス費用	112,469	118,111
その他の損益(純額)	327	1,063
販売費および一般管理費	105,962	105,156
貸倒引当金繰入額	4,639	4,946
長期性資産評価損	1,085	26
有価証券評価損	180	0
営業費用計	700,317	511,922
営業利益	91,980	91,995
持分法投資損益	29,133	5,173
子会社・関連会社株式売却損益および清算損	14,498	13,786
税引前四半期純利益	135,611	110,954
法人税等	44,670	30,922
四半期純利益	90,941	80,032
非支配持分に帰属する四半期純利益	1,179	34
償還可能非支配持分に帰属する四半期純利益	50	51
当社株主に帰属する四半期純利益	89,712	79,947

(注) 当第1四半期連結会計期間より、四半期連結損益計算書上、従来「サービス収入」に含めていた金融保証収益を、「金融収益」に組替表示しています。この変更は、会計基準編纂書606(顧客との契約から生じる収益)の適用に伴い、より収益構造を適切に反映する表示を目的として行ったものです。これにより、前第1四半期連結累計期間も組替表示しています。

## (3) 四半期連結包括利益計算書(米国会計基準)

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)
四半期純利益	90,941	80,032
その他の包括利益(△損失)		
未実現有価証券評価損益	△1,956	238
金融負債評価調整	—	△3
確定給付年金制度	△257	△13
為替換算調整勘定	5,614	△4,736
未実現デリバティブ評価損益	145	△30
その他の包括利益(△損失) 計	3,546	△4,544
四半期包括利益	94,487	75,488
非支配持分に帰属する四半期包括利益	150	23
償還可能非支配持分に帰属する四半期包括利益	39	347
当社株主に帰属する四半期包括利益	94,298	75,118

## (4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

## (5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

## (6) 会計方針の変更

(新たに適用された会計基準)

2014年5月、会計基準書アップデート第2014-09号(顧客との契約から生じる収益—会計基準編纂書606(顧客との契約から生じる収益))が公表され、その後、それを修正するアップデートが公表されました。これらのアップデートは、企業が、顧客に約束した財またはサービスの移転を描写するように、その移転した財またはサービスと交換に権利を得ると見込む対価を反映した金額で収益を認識することを要求しています。当社および子会社は、これらのアップデートを、適用日に収益認識が完了していない契約について累積的影響を認識するアプローチを使用して、2018年4月1日から適用しています。これらのアップデートの適用により、主にアセットマネジメント事業において顧客から受領する成功報酬の認識時期、および工事進行基準または工事完成基準を適用している不動産プロジェクトにおける収益の認識時期に変更が生じました。これらのアップデートの適用による、当社および子会社の適用日における財政状態への主な影響は、四半期連結貸借対照表上、利益剰余金の増加が405百万円でした。

2016年1月、会計基準書アップデート第2016-01号(金融資産および金融負債の認識と測定—会計基準編纂書825-10(金融商品—全体))が公表されました。このアップデートは、持分証券への投資を公正価値で測定し、公正価値の変動を損益認識する方法、または帳簿価額をその後の観察可能な取引価格により調整する代替的方法で会計処理することを要求しています。また、このアップデートは、公正価値オプションを選択したことにより公正価値で評価される金融負債の公正価値の変動の表示を改定しています。当社および子会社は、このアップデートを2018年4月1日から適用しています。このアップデートの適用による、当社および子会社の適用日における財政状態への主な影響は、四半期連結貸借対照表上、持分証券にかかる未実現の公正価値変動額その他の包括利益累計額から利益剰余金への組替、および公正価値オプションを選択したことにより公正価値で評価される金融負債の商品固有の信用リスク額を、利益剰余金からその他の包括利益累計額へ組替えたことによる、その他の包括利益累計額の減少が2,899百万円、利益剰余金の増加が2,899百万円でした。

2016年10月、会計基準書アップデート第2016-16号(棚卸資産以外の連結会社間の資産譲渡—会計基準編纂書740(法人税等))が公表されました。このアップデートは、棚卸資産以外の連結会社間の資産譲渡について法人税等の影響額を当該資産が最終的に第三者に売却されるまで繰り延べる例外規定を削除し、当該譲渡が発生した時点でそれらの当期および繰延税金の影響を認識することを要求しています。当社および子会社は、このアップデートを2018年4月1日から適用しています。このアップデートの適用による、当社および子会社の適用日における財政状態への主な影響は、四半期連結貸借対照表上、利益剰余金の増加が3,772百万円でした。

## (7) セグメント情報(米国会計基準)

## 事業の種類別セグメント情報

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2017年4月1日 至2017年6月30日)		当第1四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年6月30日)		前連結会計年度末 (2018年3月31日)	当第1四半期 連結会計期間末 (2018年6月30日)
	セグメント収益	セグメント利益	セグメント収益	セグメント利益	セグメント資産	セグメント資産
法人金融サービス事業	25,456	10,225	25,004	7,820	991,818	976,117
メンテナンスリース事業	68,346	9,894	69,858	9,696	847,190	855,286
不動産事業	46,520	32,833	54,524	22,219	620,238	598,140
事業投資事業	422,557	16,657	234,518	11,905	856,348	876,811
リテール事業	112,597	22,014	102,815	21,785	3,174,505	3,236,630
海外事業	117,032	42,799	118,479	40,006	2,608,819	2,574,171
セグメント計	792,508	134,422	605,198	113,431	9,098,918	9,117,155
連結財務諸表との調整	△211	1,189	△1,281	△2,477	2,327,064	2,254,747
連結合計	792,297	135,611	603,917	110,954	11,425,982	11,371,902

- (注) 1. 当社の業績評価は、税引前四半期純利益に税効果控除前の非支配持分に帰属する四半期純利益および償還可能非支配持分に帰属する四半期純利益を加減しています。なお、セグメント利益には税金費用は含まれていません。
2. 当第1四半期連結会計期間より、リース債権、貸付債権等の金融資産を証券化するためのVIEについては、各セグメントのセグメント収益・セグメント利益・セグメント資産に含めており、この変更により前第1四半期連結累計期間、前連結会計年度を組替再表示しています。
3. セグメント間の取引を各セグメント収益に含めて計上し、その消去を四半期連結財務諸表との調整に含めて計上しています。

## 所在地別セグメント情報

## 前第1四半期連結累計期間

(単位:百万円)

	日本	米州地域	その他海外	連結合計
営業収益	670,711	54,784	66,802	792,297
税引前四半期純利益	92,398	19,314	23,899	135,611

## 当第1四半期連結累計期間

(単位:百万円)

	日本	米州地域	その他海外	連結合計
営業収益	485,406	48,590	69,921	603,917
税引前四半期純利益	70,263	28,868	11,823	110,954

- (注) 1. 本邦以外の区分に属する主な国または地域  
米州地域・・・米国  
その他海外・・・アジア地域、欧州地域、豪州地域、中東地域
2. 当第1四半期連結会計期間よりORIX Corporation Europe N.V.については、従来はその他海外に計上していたものを、営業収益、税引前四半期純利益共に上記地域に分割して計上しております。この変更により、前第1四半期連結累計期間を組替再表示しています。

## (8) 重要な後発事象

該当事項はありません。